

公表) 事業所における自己評価総括表(放デイ)

○事業所名	みずたま			
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日 ~ 令和6年12月16日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	90	(回答者数)	30
○従業者評価実施期間	令和7年1月4日 ~ 令和7年1月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数)	13
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の特性や環境などを踏まえた支援の提供	状況や発達の段階の整理し個別に支援している。個別の取り組みや集団での取り組みなどそのこに応じて支援内容を考えている。	
2	本人、家族、関係機関との連携	保護者だけでなく学校や学童など利用児が通っている所と情報を共有している 必要であれば、本人・家族一緒に話を整理している	スクラム会議だけでなく、定期的に相談・聞き取りの時間をしっかりとっていく
3	実際の社会生活で活かせるための支援の提供	人とのやりとりや生活スキルなどを療育中に友だちやスタッフと場面を設定したり、外出療育で実際の公共施設などに行ったりして般化	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	年齢が大きくなった児童に対する支援	事業所にいる児童の年齢が上がってきているが、中学生・高校生へのアプローチの方法がまだまだ少ない 高校の情報共有が少なく支援者がイメージしにくい	思春期の発達の段階や支援の方法の幅を広げる、関係機関との情報共有の開拓
2			
3			

公表) 事業所における自己評価結果(放デイ)

事業所名		みずたま		公表日		令和7年3月24日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	13	0			
	2	利用定員やお子様の状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12	1	・利用の時間帯の工夫が必要。 ・保育士、精神保健福祉士、心理士などがそれぞれの専門性から意見やアイデアを出し合っている。	国の配置基準以上の配置になっている。その日のお子様の状況に対応しきれていないことがある。支援方法を見直す必要がある。	
	3	生活空間は、お子様にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12	1	・声掛け、文字、絵で見せるなど、その子に応じた配慮が考えられて実行されている。	大学の敷地を借りているので仕方ないが、トイレなど一部バリアフリーになっていない設備がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、お子様達の活動に合わせた空間となっているか。	13	0			
	5	必要に応じて、お子様が個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	13	0	・緊張の強い際や個人的な話が見たい場合、個室も活用しながら支援を行っている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	13	0			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	0			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	0	・会議や理事長、部長面談が設けられ、その場がしっかりと活用されている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	11	2		今年度第三者評価を行った。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	13	0	・とても興味深いです。 ・常勤職員のみならず、パート職員にも行われている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	3	・作成中だと思う。 ・今後、作成・公表の予定。 ・作成中。でも良いのができるはず。	完成し、現在HPIに掲載中。	
	12	個々のお子様に対してアセスメントを適切に行い、お子様と保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	13	0	・その子の特性をきちんと把握できるよう、複数人で支援計画を作成・評価しているように思う。 ・相談支援員との連携が多く、ニーズをより多面的に把握できている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、お子様の支援に関わる職員が共通理解の下で、お子様の最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13	0	・その子の特性をきちんと把握できるよう、複数人で支援計画を作成・評価しているように思う。 ・全員で支援プランをねるようになっている。積極的にその時間を持っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13	0	・引きつぎの際には、きちんとその子の支援計画を確認・参照しながら、引きつぎ・共有されているように思う。		
	15	お子様の適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13	0			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、お子様の支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13	0			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13	0	・複数人で話し合っている。その日の来所メンバーに応じて、また先週のふりかえりをふまえて内容を考えている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13	0	・複数人で話し合っている。その日の来所メンバーに応じて、また先週のふりかえりをふまえて内容を考えている。	
	19 お子様の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	13	0		
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13	0	・いわゆるリーダー不在のときには、個別に動きがちだが、意識して声掛けが行われるようにしている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	13	0	・翌日に振り返りを行っている。 ・終了後は難しいため、翌日の朝行うこともある。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13	0		
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13	0		
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	12	1	・外出療育を月1回程度実施し、地域資源の活用や交流をすすめている。	自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、地域交流の機会の提供、余暇の提供で、お子様の特性やニーズによるが、複数提供している。
	25 お子様自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	13	0	・でも少し弱いかも。 ・要望を聞いたり、複数の選択肢を一緒に考え、決めていく工夫を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのお子様の状況をよく理解した者が参画しているか。	13	0		
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	13	0		
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、お子様の下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	13	0	・朝礼でミスやトラブル、ケガなども含め報告してはいます。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定おこや園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	13	0		
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	12	1	・実例がない。	実績はないが、提供できる。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	12	1		連携をとり、研修など参加している。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のお子様と活動する機会があるか。	5	8	・外出療育先で。	通っていることを知られたくない人もいるので、外出療育などで地域に出た際に、地域の子どもたちと関わるなど自然な場面で関わっている。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	13	0		
	34 日頃からお子様の状況を保護者と伝え合い、お子様の発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13	0		
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	13	0		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、お子様や保護者の意思の尊重、お子様の最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、お子様や家族の意向を確認する機会を設けているか。	13	0	・保護者のニーズはしっかり聞いていると思う。年齢によっては、本人のニーズも聞いている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	13	0	・個別相談支援を積極的に行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	12	1		法人でぶどうの会(親の会)の事務局をしている。月に1回座談会や催しをしている。兄弟同士での交流に特化した機会は設けていない。法人行事で、兄弟が参加できるイベントは開催している。
	41	お子様や保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、お子様や保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をお子様や保護者に対して発信しているか。	13	0	・毎月の活動予定や実際の活動の様子を毎月SNSに掲載している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13	0	・HPなどに載せる写真は、特に気を配っている。	
	44	障害のあるお子様や保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	11	2	・法人の。	事業所単体で取り組んだことはないが、法人のイベントなどで、事業所をポイント地点にしていることがある。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12	1		安全計画を作成している。安全計画にもとづきマニュアルの策定、施設点検や避難訓練など定期的に行っている。家族への周知をこれからしていく必要がある。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12	1		BCPを作成、全体会で周知している。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のお子様の状況を確認しているか。	13	0		
	49	食物アレルギーのあるお子様について、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12	1		医師の診断を保護者から伝えてもらっている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	3	・安全計画作成されているか分からない。	安全計画を作成している。安全計画にもとづきマニュアルの策定、施設点検や避難訓練など定期的に行っている。
	51	お子様の安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11	2		避難訓練など取り組んだ際に、連絡ノートに記載している。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13	0	・朝礼で共有。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13	0		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、お子様や保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10	3	・なし(該当)。	現在対象者がいない。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
自事業所の強みと感るところ				自事業所の弱みと感るところ	
<ul style="list-style-type: none"> その子の特性をきちんと見よう(得よう)としている点。1人1人に応じた支援計画を作成している。 利用児個々にあわせた支援の提供。保護者の相談対応。 外出療育を行っているところ。 様々な職種の視点から支援できる。外出療育で社会体験の機会を設けている。 子どもたちの好きな所を取り入れて、利用児が参加しやすいように工夫できている。 学校や家庭からの聞き取りはできている。 研修などを通して理解を深め、個々のレベルアップできる機会があること。 定期的にスタッフ会議を行い、支援方法を考えたり情報共有を行っているところ。 定期的にある研修を通して、障がいの理解を深めた上で支援できているところ。 自閉症の特性に基づいた支援を行っている。子どもたち、ご利用者様が地域生活を送ることができるよう関係機関と密に関わることができるところ。 				<ul style="list-style-type: none"> きめ細かい対応をしているが、1件1件に時間がかかっている。 時間の使い方。 支援後の振り返りが十分でない。 利用目的が多様化し、全員で集まって話をする機会が減っている。 時間に追われて、スタッフが子どもたちと十分に遊べていない。 支援計画書の作成手順。 地域への周知不足(他サービスとの違いなど)。自閉症支援、保護者支援、地域支援を行う上での職員のスキル(更に向上させていく)。 	
工夫しているところ				弱み・課題と感っている点の原因	
<ul style="list-style-type: none"> 個々の療育での対応、様子の振り返りについて、一人一人時間をとっている。 様々な活動を考えている。利用児多い中、準備や書類等とりくんでいる。 集団が苦手なお子さんに、通常療育の中で外出と似た活動設定を行う。 子どもたちの好きな所を取り入れて、利用児が参加しやすいように工夫できている。 みんなが同じ理解のもと、同じ支援ができるような場を設けていること。 自事業所の会議だけでなく他事業所と共にスタッフ会議をし、情報等共有している。 療育で学んだことを買い物体験や映画鑑賞などの外出療育で実践しているところ。 特性に合わせた支援を行うことで学びやすさにつなげている。個別ケースに合わせた関係機関との関係づくり。 				<ul style="list-style-type: none"> 一つ一つの事案に対して、解決策、方略が見出せない時に時間がかかる。ていねいにしている。 時間を確保できない。 業務負担の偏り。幅広い年齢層。 勉強の時間配分?! 伝え方等。 利用者の年齢が上がっていく中で、各発達段階に合わせた支援について勉強不足もあるのではないかと感じる。 	
更に充実させるために必要なこと					
<ul style="list-style-type: none"> より利用者さんにまんべんなく良い支援を提供するために、時間の使い方を工夫する(一つの事案への時間のかけ方)。 限られた時間の中で、職員がきちんと引き継ぎできるようにしたい(他の業務も含めて)。 時間がなくても支援の話しあい(よりよくするために)を行う。時間を大切にする。他の人でも、誰でもできるように引き継ぎ、支援方法の共有。 日々あったことの反省会。(よかった所も、改善点も)みんなで助け合って療育していく。 職員のスキルアップ。地域への周知。 					